



愛郷無限

土屋館
どやだて
通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2014年04月05日号 NO.468

写真提供：大崎市

Subject：消費税の本当の仕組みを考える

4月1日から消費税が8%に上がりました。【消費税は買い物に均等にかかるから最も平等な税の徴収方法である】と我々は教わってきました。しかし、どうやら内実は異なるようです。

日本国憲法に定められている日本国民の義務は【教育】、【勤労】、【納税】の三つですが、子ども達に対して、納税の意義を教えることはあっても（みんなで使うものをみんなで集めたお金で用意すること）、具体的な納税の方法や仕組みに関してはほとんど教えられないことがあります。大人になって会社勤めをすれば自動的に源泉徴収・年末調整され、買い物をすれば消費税が加算される。当たり前って思って任せっぱなしでほとんど勉強したことがありませんでしたが、我が畏友から次の本を薦められ、読んで見たところ驚きの連続でした。

◆シリーズ14歳の世渡り術 『ちゃんと分かる消費税』

河出書房新社

斎藤貴男著 1,200円（税別） ISBN978-4-309-61684-1

このシリーズは『知ることは、生き延びること』をテーマに、未来が見えない今だから中学生から学生までの若い世代が自分たちで【考える力】を鍛えることを目的としたものだそうです。それゆえ、消費税や税という難しい内容をとても分かりやすく、読みやすく書かれています。

消費税反対論者である著者が、消費税の基本的な仕組みから、歴史、内外の状況などを説明されています。ちょっとビックリですが、日本の源泉徴収という徴税方法は1940年の戦時中に採り入れられたそうです。言わずもがな、会社が税金を給料から予め差し引いて納税してくれる方法で、取りっぱぐれがない訳です。これはヒトラーのナチスドイツが発明して採用した、戦時用の徴税方式なんだそうです。戦時の日本でもこれはよい！と採用された方法。その戦時中の手法が変えられることなく連綿と続いている。

またアメリカでは消費税はありません。源泉徴収もありません。過去の政府が何度も消費税（付加価値税）を導入しようと試みたそうですが、議会や裁判所から【消費税は公平な徴収方法ではなく、弱い者、低所得者の負担が増大し、フェアな徴税方法とは言えない】と却下され続けているそうです。

また消費税アップによって購買意欲の低下による景気低迷、弱者の生活の圧迫が懸念されていますが、それ以上に恐ろしいことは、法人税と異なり赤字であっても預かり金として有無を言わず取り立てられる消費税が零細企業、自営業者の倒産を増加させることだと喝破しています。私は読んでみて目から鱗思いでした。皆さんもぜひ読んでみてください。消費税に関する見方、日本の税制に関する意識がきっと変わるはず。